

令和6年度 京都府立大学地域貢献型特別研究（府大 ACTR）成果概要報告書

分類 番号	2	取組 名称	戦争の記憶の記録化と次世代への継承の仕組み構築
研究代表者所属・職名：		文学部歴史学科・准教授	氏名： 上杉 和央
研究担当者：			
京都府立大学（川瀬貴也、小林啓治、奥谷三穂（敬称略）） 外部分担者・協力者（村田雅之、長嶺睦、勝島勝彦、井尻智道、小塩睦子、今堀誠弥、新開弘二、植田喜裕、木下幸司（敬称略））			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京丹後市立資料館、舞鶴引揚記念館、NPO 法人舞鶴・引揚語りの会、南丹市立文化博物館、 亀岡市文化資料館、京田辺市、長岡京市、（一社）沖縄京都の塔奉賛会、京都府地域福祉推進課恩給・ 援護係など			
【研究活動の要約】			
京都出身者の沖縄戦への従軍や体験については、これまで調査されることがありませんでした。今回、従軍された方の手紙や遺留品、また遺族の方などへの聞き取りを通じて、その実態の一端について調査することができました。 調査成果についてはポスターにまとめ、京都府内6か所（長岡京市・南丹市・京丹後市・亀岡市・京田辺市・舞鶴市）で展示をおこないました。 戦後80周年を迎えるなかにあって、戦争の記憶の継承が課題となるなか、記憶の記録化することができました。今後の平和学習や歴史教育に役立てられることを期待します。			
【研究活動の成果】			
今回の調査では、大きく2つの点で調査成果を得ました。 1つは、京都出身者の沖縄戦従軍者のうち、現地で戦没した方々のおよそ半数について、戦没日・戦没場所を記録から読み取り、地図上に落とすことができました。これまで、京都出身者の所属する部隊の一部は、現・宜野湾市嘉数付近に駐屯し、そこでの戦闘で命を失ったことが分かっていましたが、今回の調査においても、そのような事例を見出すことができました。一方で、北部や南部で亡くなった人もおり、沖縄戦全体を通じての犠牲があったことも見えてきました。 もう1つは、個別の聞き取り調査を通じて、従軍者一人ひとりの姿や、見送った家族の思いに触れることができた点です。戦争の被害は「〇〇万人」といった犠牲者数で表現されることが多いですが、一人ひとり、それぞれに人生があり、またその周りの家族の人生があります。今回、10数名の沖縄戦従軍者の人生や思い出の一部に触れることができました。こうした個別の記憶を記録し、伝えていく意義を改めて理解することができました。			
【研究成果の還元】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書「京都府立大学文化遺産叢書 第36集 京都出身者の沖縄戦」（府大図書館に配架予定） ・ 長岡京市・南丹市・京丹後市・亀岡市・京田辺市・舞鶴市において成果展示を実施 			
【お問い合わせ先】 文 学部（研究科） 地理学研究室 准教授・ 上杉和央 Tel: 075-703-5278 E-mail: kuesugi@kpu.ac.jp			

